

① ますだ産業祭に高津川流域林業活性化センターがブースを出展しました！

11月5日(日)に益田市市民学習センター周辺で開催された第37回ますだ産業祭に、高津川流域林業活性化センターがブースの出展をしました。

ブースでは、チェーンソーVR体験とマイクロショベル操作体験を行いました。

チェーンソーVR体験では、参加者がVRゴーグルを着けて、スタッフに誘導されながら、慎重に木の伐倒体験を行っていました。お子さんだけでなく、チェーンソーを使ったことのない方やこれから使ってみてみたい方など、多くの方に体験していただきました。

マイクロショベルの操作体験では、スタッフから操作説明を受けながらアームを動かしたり、回転したりしました。見た目のインパクトがあり、開場から終わりまで多くの方に来場いただきました。

ブースに来ていただいた多くの方から「楽しかった」という感想をいただき、林業への興味関心を深めてもらいました。



チェーンソーVR体験



マイクロショベル操作体験

② 林業省力化技術実証事業現地研修会が開催されました！

11月10日(金)に津和野町瀧元枕瀬公民館ほかにて、林業省力化技術実証事業研修会が開催されました。この研修会は、高津川流域林業活性化センターが、島根森林管理署と島根県と連携のもと主催し、県内の林業事業体等から34名の方が参加されました。

原木生産や再生林の低コスト化を推進するため、ICT機器の活用による作業効率化を実証する目的で行われ、今回は、AI搭載型ドローンのデモ飛行、GNSS測位機、3DWalkerの紹介が行われました。現地研修会は、津和野町の中ノ谷国有林で行う予定でしたが、残念ながら、雨天により体育館内でのAI搭載型ドローンのデモ飛行のみとなりました。AI搭載型ドローンは搭載されたカメラにより障害物である林内の立木を回避して飛行し、立木を画像撮影し林分状況把握を行うという機器です。林分を踏査しなくても林分調査ができる機器ですので、今後、有効な手法と考えられます。参加者からは3つの機器に関して幅広い質問があり、理解を深めていただきました。



AI搭載型ドローン デモ



AI搭載型ドローン 座学

③ 木造住宅にかかる講演会を開催しました！

11月14日(火)に益田合同庁舎にて講演会「ZEH対応と2025年問題への理解」を開催しました。講師には、木造住宅品質確保普及促進協議会理事長である黒川恵史氏をお招きし、2025年4月からの新築住宅に適合が義務化となる「省エネ基準」とZEH(ネットゼロエネルギーハウス)を中心とした、木造住宅とエネルギーについてお話をいただきました。

講演会では、日本の住宅事情や海外の住宅に関する基準、2025年に義務化となる基準と断熱と関係、など住宅とエネルギーに関して、幅広いお話をいただきました。

益田管内と浜田管内の製材所、工務店、市町村等16人に参加していただき、参加者からはリフォームも適合義務化になるか、構造計算の必要性など質問があり、今後の木材建築基準に理解を深めていただきました。



講演会の様子

④ 桂平小学校でクマの勉強会を行いました！

11月27日(月)に益田市立桂平小学校にて「クマから身を守る研修会」を開催し、児童と地域住民合わせて30人の方に参加していただきました。

桂平小学校では毎年、益田事務所の鳥獣担当者が研修会を行い、生徒たちもクマに対する知識はしっかりと定着している様子でした。「この質問わかるひといろかな?」といった問いにも積極的の手が上がり、はきはきと答えてくれました。

座学の後は、今年は柿もぎ体験を行いました。甘い果物として昔から親しまれてきた柿ですが、現在では人口減少や高齢化などが原因で、放置されている柿の木が増えています。こうした放棄果樹はクマをはじめとする野生鳥獣の貴重な餌資源となってしまっています。また、放棄果樹の対策を行いたくても、果樹の所有者が分からなかったり、高齢で対応することが難しいといった問題が全国で起こっています。

今回、児童たちは地域の人と一緒に柿もぎをすることで、柿の実をもぐことの大変さと大切さを体験し、放棄果樹への問題意識をもってもらえたと思います。一人では解決できない問題にも、地域が一丸となって取り組むことで解決していくことができます。みんなが安心して生活できる地域づくりを、小さなことからコツコツと行っていきましょう！



柿の実をもぐ生徒たち



座学の様子